徒然草　仁和寺にある法師　解答

PSI academia

問1

傍線①の「心うく」とはどのような気持ちか。また、なぜそのように思うのか、理由を書きなさい。

気持ち

残念で、情けなく思う気持ち。

理由

年を取るまで、石清水八幡宮に一度も参拝したことがなかったから。

問2

傍線ア～エの読みがなをひらがなで書きなさい。また、意味をそれぞれ書きなさい。

ア	イ	ウ	エ
徒歩	かたへの人	年ごろ	先達
読みがな：かち	読みがな：かたえのひと	読みがな：としごろ	読みがな：せんだつ
意味：歩いて行くこと。	意味：仲間の人。	意味：長年、長い間。	意味：その道に詳しく、案内や指導をする人。

問3

傍線②の「尊くこそおはしけれ」とは、何がどのような状況か。説明しなさい。

説明

法師が石清水八幡宮だと思い込んで拝んだ極楽寺・高良神社などが、以前に聞いていた以上に尊く、ありがたい様子だったということ。

問4

傍線③の「あらまほしきことなり」とはどのような気持ちを表しているか。また、なぜそのように思うか、理由を書きなさい。

気持ち

どんな小さなことにも、その道に詳しい案内人や指導者がいてほしいという気持ち。

理由

案内人がおらず、法師が山上の本宮を拝まずに帰ってしまったから。

氏名：

徒然草　仁和寺にある法師　解説

問1

「心うし」は、つらい・情けない・残念だという意味。ここでは、長年参拝していなかったことを残念に思っている。「拝まざりければ」の「ざり」は打消、「ければ」は理由を示す。

問2

読みがなは現代の発音で書くので、「かたへ」は「かたえ」とする。「年ごろ」は、この文では年齢や適齢期ではなく「長年」の意味。「先達」は「せんだち」という読みもある。

問3

法師自身は石清水八幡宮を拝んだつもりだが、実際に見たのはふもとの寺社。「聞きしにも過ぎて」が比較の基準を示す。「こそ」に対して「おはしけれ」が已然形になる係り結び。

問4

最後の一文は、法師の発言ではなく作者の教訓。「あらまほしき」は、あってほしいという願望を表す。よく知らないことは、詳しい人の案内や助言を受ける大切さを述べている。

仁和寺にいるある法師は、年を取るまで石清水八幡宮にお参りしたことがなかったので、残念に思って、あるとき思い立ち、たった一人で歩いてお参りに出かけた。極楽寺や高良神社などを拝んで、参拝する所はこれだけだと思い込み、帰ってしまった。

さて、仲間の人に会って、こう言った。「長年思っていたことを、やり遂げました。うわさに聞いていた以上に、尊くありがたい様子でした。それにしても、お参りに来た人が皆、山へ登っていったのは、山の上に何があったのでしょうか。知りたかったのですが、神様にお参りすることこそ本来の目的だと思って、山の上までは見ませんでした。」

どんな小さなことにも、その道に詳しい案内人や指導者は、いてほしいものである。